

# 地 域 再 生 計 画

## 1. 地域再生計画の名称

陸奥湾南の地域産業を支える安全な港づくり計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

青森県

## 3. 地域再生計画の区域

青森市並びに青森県上北郡野辺地町及び青森県東津軽郡平内町の区域の一部（青森漁港、野辺地港及び東田沢漁港）

## 4. 地域再生計画の目標

青森市、野辺地町及び平内町は、青森県のほぼ中央に位置しており、陸奥湾南側に面している。日本有数のホタテガイ養殖の基地として有名であり、全漁獲量の90パーセント以上を占めるホタテガイ漁業が基幹産業のひとつとなっており、水揚げされるホタテガイは主に地域の水産加工場へ出荷され、青森市は水産加工場が多く陸奥湾南のホタテガイ養殖を支えている。

また、地域沿岸は一年を通じて釣りが楽しめるフィッシングスポットとしても注目されており、カレイ・鯛釣りのメッカとして県内外からも釣り客が訪れている。一方、年々プレジャーボートの数も増えてきており、漁業者からは海中のホタテガイ養殖施設への影響や走行時の危険性が指摘されており、プレジャーボートへのルール周知が求められている。

青森市の水産業は、北海道と本州を結ぶ漁獲物運搬の基地として、また、北洋漁業の根拠港として全国的な利用があったが、昭和52年米ソの200海里規制による沖合漁業及び北洋漁業の大幅な減船により利用漁船や水揚げが落ち込む一方で、昭和45年頃からホタテガイ養殖技術の確立によって、捕る漁業から育てる漁業へと転換したホタテガイ養殖が主体となっている。近年では、ホタテガイ養殖を補う魚種としてナマコの栽培漁業にも取り組んでいる。野辺地町では、海とともに発展してきた町として、海をキーワードに、十符ヶ浦海水浴場、常夜灯公園、潮騒公園と海に面した観光施設を軸に、港を賑わいの場として再生し、漁業と一体的な整備をすすめ活力ある港づくりに取り組んでいる。平内町では、経済発展のための基幹産業は農漁業との認識に基づき、生産向上に向けた活動が続けられ、特に漁業は、ホタテガイ種苗生産の成功により、捕る漁業からつくり育てる漁業に力が入れられ、現在では町を支える産業となっている。

青森漁港は市街地に面した位置にあり、漁港区域内には水産加工場(5事業所)や事業所が多

く、その背後には住宅が密集している。水産加工場は地域で水揚げされたホタテガイを原料にした加工品を製造しており（平成20年で約2,400トン）、陸奥湾南のホタテガイ加工基地としての役割を担っている。しかし、荒天時に、防波堤からの越波により港内の静穏度が保てない状況にあり、ホタテガイ養殖資材の積込み、荷卸し作業や陸揚げ作業に支障を来しており効率的な漁業活動が出来ない状態となっている。また、大型低気圧や台風等で、防波堤からの越波により漁港施設や背後地区への浸水による被害が発生しており、漁業活動だけではなく水産加工場にも影響を及ぼしている。

野辺地港は、平成7年4月に野辺地・函館間を結ぶカーフェリーが撤退した後、取扱貨物量が下降の一途をたどっており、平成13年に潮騒公園が整備されたものの、旧フェリー埠頭の有効利用をあわせたさらなる港湾施設の整備が望まれている。

東田沢漁港では、荒天時に、護岸からの越波による漁具流出や、背後道路の通行不能などの事態が生じ、安全な利用が困難な状態となる。また、漁具の洗浄、乾燥を行う用地の舗装が行われていないため、高齢化が進む漁業者の負担になっている。

地域が抱えるこうした課題を解消するために、青森漁港においては、防波堤改良により効率的な漁業活動が行える漁港機能の強化と、背後地区の浸水による水産加工場への影響を防止し、陸奥湾南のホタテガイ出荷の安定を図り、野辺地港においては、小型艇の係留・保管施設を整備し、プレジャーボートを集約的に管理することにより、これまでは困難であったプレジャーボートへのルール周知を行い、安全・安心な漁業活動を保障するとともに、プレジャーボートの安全・快適な航行を確保する。また、野辺地沿岸にある既存の観光施設と併せてマリンスポーツの賑わい空間を創出し、魅力ある町づくりに寄与することを目的とし、東田沢漁港においては、効率的な漁業活動が行える水産拠点としての機能を強化し、あわせて港湾及び漁港の連携により、海上航行の安全と地域産業の発展を推進し、地域の活性化を図るものである。

### **（目標1）プレジャーボート集約による安全性の確保**

現在プレジャーボートの出港及び入港の場所が一定しておらず、早朝のホタテガイ養殖作業の漁船の出港とも重なり、安全性の確保のために慎重な操船を強いられている状況にある。この状況の解消を目標とする。

- ・物揚場及び小型艇保管施設の収容隻数60隻/年（平成23年以降）

### **（目標2）野辺地沿岸域の賑わい空間の創出**

隣接するのへじ潮騒公園で開催されているイベント等に整備した港湾施設を活用することで、イベント入場者数の増加を目指す。

- ・のへじ潮騒公園で毎年開催される『常夜灯フェスタ』の入場者数5,000人（平成23年以降）

### **（目標3）漁業活動の効率化と地域漁業の振興**

漁港の基盤整備により、地域漁業の振興と水産物の安定供給を図る。

- ・東田沢漁港の荒天時の護岸越波回数4回/年を解消（平成24年以降）
- ・青森漁港の荒天時の岸壁を越える波による漁港内用地の浸水回数2回/年を解消（平

成 26 年以降)

## 5. 目標を達成するための事業

### 5-1 全体の概要

青森県陸奥湾南地域の産業、経済の振興に寄与するため、青森漁港及び東田沢漁港では漁業活動の安全性及び効率性向上を図るため防波堤、護岸、用地を整備し、また、青森漁港においては背後地区への浸水を防ぎ水産加工場へ陸奥湾南のホタテガイの出荷安定を図る。野辺地港では海上航行の安全強化と周辺沿岸域の賑わい空間の創出を図るための物揚場、船揚場、小型艇保管施設の整備を行う。

### 5-2 法第五章の特別の措置を適用して行う事業

#### 港整備交付金を活用する事業

##### 〔施設の種類の事業主体〕

- ・港湾施設（野辺地港） 青森県
- ・漁港施設（青森漁港<第2種漁港>、東田沢漁港<第1種漁港>）青森県

##### 〔整備量〕

- ・港湾施設 物揚場、船揚場、小型艇保管施設
- ・漁港施設 防波堤、護岸、漁港施設用地

##### 〔事業期間〕

- ・港湾施設 平成 21 年度～平成 22 年度
- ・漁港施設 平成 21 年度～平成 25 年度

##### 〔事業費〕

- ・総事業費 2,169,000 千円（うち交付金 1,073,000 千円）
  - 港湾施設 69,000 千円（うち交付金 23,000 千円）
  - 漁港施設 2,100,000 千円（うち交付金 1,050,000 千円）

※なお、上記事業の整備箇所については、別添の整備箇所を示した図面による。

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置

該当無し

#### 5-3-2 基本方針に掲げられた支援措置によらない独自の試み

##### (1) のへじ常夜灯フェスタ

野辺地町では、自然や観光、産業、特産物、郷土料理など、野辺地の基盤を築いてきた「海」をテーマにしたイベントを開催し、賑わいのある港づくりに取り組んでいる。

##### (2) 漁業体験

平内町では、漁業者の新産業の振興として、ホタテガイ漁業を核としたブルー・ツーリズム（漁業体験）を実施しており、複合型産業としてビジネスチャンスを増やすことによ

り、地域産業の活性化を図る。

(3) 水産物荷さばき施設整備

野辺地町では、漁業経営の安定と地域産業の活性化を促進するため、水産物の衛生管理の向上と鮮度保持を図り、水産物荷さばき施設を整備する。

(4) 稚ナマコの放流事業及びナマコ漁場造成事業

青森市では、水産業の振興のため、ナマコ資源の維持増大を図り種苗の放流及びナマコ漁場を造成し、漁業経営の安定を図る。

## 6. 計画期間

平成21年度～平成25年度（5カ年）

## 7. 目標達成状況に係る評価に関する事項

計画終了後に4に示す目標に照らし調査・評価し、公表する。また、必要に応じて事業の内容の見直しを図るために、青森県等で構成する「公共事業再評価委員会」等で施設の整備状況等について評価・検討を行う。

## 8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し